

平成26年 4月 7日

報道関係者各位

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学

## 奈良先端大准教授、グーグルグラスを使った研究プロジェクトで グーグル・ファカルティ・アワードを受賞

### 【概要】

奈良先端科学技術大学院大学（奈良先端大、学長：小笠原直毅）情報科学研究科のクリスチアン・サンドア准教授が、メガネをかけるように画面が見られるグーグルグラスを使った研究プロジェクトでグーグル・ファカルティ・アワードを受賞しました。

この賞はグーグルが世界のトップ大学に在籍する世界的研究者を支援するために設けており、半年ごとに公募を行い、受賞者を選考しています。受賞者には、賞金とグーグルの研究者との共同研究の機会が与えられます。

今回は、世界46カ国から691件の応募があり、115件（うち米国外は約25%）が受賞し、サンドア准教授は、日本の大学から唯一の受賞者です。受賞者には、コロンビア大学、ハーバード大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、マサチューセッツ工科大学、チューリッヒ工科大学などの世界の一流大学に在籍する研究者が含まれています。公式発表は以下のURLで確認出来ます。

<http://googleresearch.blogspot.com/2014/02/google-research-awards-winter-2014.html>

つきましては、関係資料を配布いたしますので、取材方よろしくお願いたします。

### <ご連絡事項>

- (1) 本件につきましては、奈良先端科学技術大学院大学から、奈良県文化教育記者クラブをメインとし、学研都市記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会及び科学記者会に同時にご連絡しております。
- (2) 取材希望がございましたら、恐れ入りますが下記までご連絡願います。
- (3) 本プレスリリースに関するお問い合わせ先

奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 インタラクティブメディア設計学研究室

氏名 クリスチアン・サンドア（英語）、加藤博一（日本語）

TEL 0743-72-5334 FAX 0743-72-5339

E-mail [sandor@is.naist.jp](mailto:sandor@is.naist.jp)（英語）、[kato@is.naist.jp](mailto:kato@is.naist.jp)（日本語）

## 奈良先端大准教授、グーグルグラスを使った研究プロジェクトで グーグル・ファカルティ・アワードを受賞

奈良先端科学技術大学院大学（奈良先端大、学長：小笠原直毅）情報科学研究科のクリスチアン・サンドア准教授が、メガネをかけるように画面が見られるグーグルグラスを使った研究プロジェクトでグーグル・ファカルティ・アワードを受賞しました。

この賞はグーグルが世界のトップ大学に在籍する世界的研究者を支援するために設けており、半年ごとに公募を行い、受賞者を選考しています。受賞者には、賞金とグーグルの研究者との共同研究の機会が与えられます。

今回は、世界46カ国から691件の応募があり、115件（うち米国外は約25%）が受賞し、サンドア准教授は、日本の大学から唯一の受賞者です。受賞者には、コロンビア大学、ハーバード大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、マサチューセッツ工科大学、チューリッヒ工科大学などの世界の一流大学に在籍する研究者が含まれています。公式発表は以下のURLで確認出来ます。

<http://googleresearch.blogspot.com/2014/02/google-research-awards-winter-2014.html>

サンドア准教授は、「グーグルグラスを用いた拡張現実感による透視メガネ」という研究プロジェクトが評価され、62,000ドルの賞金と2台のグーグルグラスが授与されます。これにより昨年からの話題になっている最新のウェアラブル（装着型）デバイスであるグーグルグラスを日本で初めて公式に入手したことになります。

サンドア准教授らによると、この研究プロジェクトの目標は、世界中のすべてのユーザに次世代の拡張現実感インタフェースを提供することです。

具体的には、グーグルグラスを使って、スーパーマンが透視するように、ユーザに障害物の向こうにあるものを見せる技術を開発することです。これまでサンドア准教授らは、実際の環境内にコンピュータグラフィックス映像を出現させる「拡張現実感技術」を用いてノートパソコン上で動作するシステムを試作してきました。このシステムを使うと、ユーザは障害物の裏側にあつて本来は見られなはずの物体をも、別のカメラで撮影された画像をもとにシステムがそれを三次元的に重畳表示することで、認識することができます=図参照。これからの目標は、その技術をグーグルグラス上に実装し、誰もが簡単に利用できるものにするということです。

このような障害物を透視して見ることが出来る技術がどこでも使えるようになると、私たちの日常生活はより安全で便利なものになるでしょう。動物は進化によって生き抜くために日常的に必要なとする感覚器官を発達させてきました。例えば、ヘビは獲物を見つけるために環境中の電気を感じることが出来ます。サンドア准教授は「人間がIT技術によってそういった新しい感覚を身に付けることは、人間以外の動物にはなし得ない新たな進化であり、今回の研究がそれを加速させると考えられる」としています。

今後、約1年でグーグルグラスを使ったシステムを開発し、それをグーグルで実演する予定です。将来的には、グーグルストリートビューやグーグルアースなどの地理情報システムと連動し、この技術が世界中のどこにいてもグーグルグラス上で使えるようにしていきたい、との計画を立てています。

### 【本プレスリリースに関する問合せ先】

奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 インタラクティブメディア設計学研究室

氏名 クリスチアン・サンドア（英語）、加藤博一（日本語）

TEL 0743-72-5334

FAX 0743-72-5339

E-mail [sandor@is.naist.jp](mailto:sandor@is.naist.jp)（英語）、[kato@is.naist.jp](mailto:kato@is.naist.jp)（日本語）



図 レストランを透過し、その向こうの駐車場が見えている。